

ISSN 1881 - 980X

日本科学教育学会  
Japan Society for Science Education  
発行：中山 迅  
事務局：宮崎大学大学院教育学研究科 内  
URL：<http://www.jsse.jp>

.....  
2013.12.15

NO.215  
.....

# 科学教育研究レター



## 目 次

■ 理事会だより	.....2	■ 国際交流委員会だより	.....8
第 259 回理事会報告 (案)		国際学会参加報告 (13)	
■ 組織改革	.....5	国際学会参加報告 (14)	
法人化部会からの報告		国際学会開催情報	
■ 年会	.....6	学協会との国際交流	
第 38 回年会開催案内 (第 2 次)		■ 編集委員会だより	.....12
■ 研究会・支部だより	.....7	2013 年度第 1 回編集理事会報告	
2013 年度研究会開催のお知らせ		■ 広報委員会からのお知らせ	.....13

日本科学教育学会第 259 回理事会報告（案）

（議事要録承認前。要点のみ参考掲載）

日 時 2013 年 11 月 16 日（土）14:00～17:00

会 場 コクヨ東京品川オフィス 11F 会議室

出席者 会長 中山

理事 片平 余田 小川 猿田 益子 寺田 隅田 千葉 高藤  
久保田 谷塚

事務局長 土田

委員会 編集 吉川

1. 議事要録（案）の承認

○第 258 回理事会議事録（案）の承認について承認した。

2. 第 259 回理事会までの電子会議による審議事項と審議結果

○事務局からの発議により、8 月 31 日までに入会を希望した 10 名を電子会議により審査した結果、全員の入会が承認された（9 月 6 日）。

○事務局からの発議により、9 月 30 日までに入会を希望した 2 名を電子会議により審査した結果、全員の入会が承認された（10 月 10 日）。

○事務局からの発議により、10 月 31 日までに入会を希望した 6 名を電子会議により審査した結果、全員の入会が承認された（11 月 11 日）。

3. 報告事項

1) 庶務・事務局

○事務局より文書受理（刊行物送付を含む）の報告があった。

2) 経理・会員

○第 37 回年会（三重大会）の収支について中間報告があった。

3) 機関誌編集

○資料に基づき編集状況について報告があった。次年度特集号のテーマについて中間報告があった。

4) 学会賞

○年会発表賞について審査中であり、担当理事欠席のため、次回理事会に提案があることの報告があった。

#### 5) 支部・研究会

○今年度 8 支部で研究会を予定しているとの報告があった（担当理事欠席のため小川庶務担当理事より）。

#### 6) 調査研究・学术交流

○サイエンスアゴラのシンポジウムについて、資料に基づき報告があった（担当理事欠席のため中山会長より）。

#### 7) 国際交流

○ICASE の年次大会参加について報告があった。

#### 8) 年会企画

○今年度年会について事前登録 223 名、当日登録 186 名であったことの報告があった。

○来年度年会（埼玉大会）の準備状況について資料に基づき報告があった。

#### 9) 広報・学会 IT 化

○資料に基づき報告があった。

#### 10) 組織改革

○新法人の選挙規程について組織改革担当理事を中心に検討中であることが、中山会長より報告があった。

### 4. 協議事項

#### 1) 退会希望者等について

○退会希望者 6 名の退会を承認した。

○除籍候補者 26 名のうち 3 名を除き、除籍を承認した。

#### 2) 消費税率値上げに伴う学会誌年間購読料金の変更について

○学会年度途中で消費税が変わるため、今年度は税理士からの提案（税込価格 13,000 円のまま）として、再来年度からは消費税増税分を含んだ価格に引き上げることを書店に連絡することを承認した。

#### 3) JSSE 機関誌電子化について

○会長から依頼をうけて機関誌電子化部会（責任者：片平副会長）が立ち上げられた事が報告された。現行の中西印刷の機関誌査読システムを使用しながら、機関誌を紙媒体を継続しつつ J-STAGE3 により電子ジャーナル化する更新プロセスの方針案と実施、必要経費を承認した。そして今後、CiNii への対応、現行の査読システムに代わる次の査読システム選定について検討を進めることも承認した。

#### 4) 年会企画委員会の委員の委嘱について

○第 39 回年会開催校（山形大学）の今村哲史会員に実行委員を委嘱することを承認した。日本学術会議若手アカデミー委員会の若手研究者ネットワークへ JSSE 若手の会を登録する提案について、年会担当理事が登録代表、責任者となることを条件に承認した。

5) 特別な参加者・発表者に対する年会参加費・旅費・懇親会の取り扱いについて

○平成 22 年 3 月 13 日理事会で承認されている取り扱いの法人化対応案が今年度年会（三重大会）にさかのぼって適応させることも含めて承認した。

6) 国立国会図書館「オンライン資料収集制度」への申し出について

○電子化された資料は国立国会図書館に登録することが法律で決まったことを受けて、科学教育研究レター、日本科学教育学会 学会通信の登録手続きを行うことを承認した。

7) 広報委員会の委員の委嘱（交代）について

○高橋みどり会員（静岡北高）から山口武志会員（鹿児島大）に交代することを承認した。

8) 学会法人化について

○定款の微修正、諸規程の見直し、財産の法人への移行スケジュール、他について

○定款案（9 月 6 日版）に修正を加えた定款案（11 月 12 日版）について説明があり承認した。

○法人化対応した会費等に関する規程案、編集委員会規程案、科学教育研究投稿規定案、著作権規程、表彰規程案、支部・研究会規程案、国際交流委員会規程案、年会規格委員会規程案、広報委員会規程案が説明され、理事会で出された修正意見を反映させた後、学会ホームページに掲載して会員から意見を求めることを承認した。

○学会財産の法人への移行について説明され、すべての財産を引き継ぐことを承認した。

9) その他

○会長から、新法人の評議員選挙管理委員を銀島理事、高藤理事、余田理事、役員選挙管理委員を久保田理事、小山理事、隅田理事に委嘱したい旨が説明され、承認した。

5. 次回以降の理事会予定

・第 260 回：2014 年 3 月 15 日（土）14:00～17:00 場所：コクヨ品川オフィス

・第 261 回：2014 年 6 月 21 日（土）14:00～17:00 場所：コクヨ品川オフィス

### 法人化部会からの報告

#### ■公証人による定款の認証について

一般社団法人の設立登記申請では、関係書類として公証人の認証を受けた定款が必要になります。そのため、総会で承認いただいた定款案を公証人に見てもらい、認証が受けられるように修正を行ってまいりました。公証人から受けた修正指示は、ほとんどが不適切な文言の修正で、基本方針に変更を迫るものはありませんでした。ただし説明が必要と思える修正が一つだけありますので、以下で説明させていただきます。

定款案では代議員制度を採用し、会員から選ばれた 30 名以上 50 名以内の代表に総会の議決権をもたせることにしました。この議決権をもつ人を法人法では「社員」と呼びますが、学会組織に馴染まない言葉なので「評議員」と呼び変えることにしました。

ところが、これについて公証人から「代議員」に変更するよう指示を受けました。「評議員という文言は一般財団法人における法律上の概念なので、一般社団法人では定款上使用できない」がその理由でした。別の公証人にも見てもらいましたが、結果は同じでした。

先の呼称は他学会の定款で前例がいくつもあることを確認し、さらに司法書士や法務局に確認しての判断でしたが、公証人から公的な了解をいただけない限り、どうしようもありません。そこで対応を理事会に諮り、この修正指示を受け入れることにしました。定款案の基本方針を変更するものでありませんので、了解いただきますようお願い申し上げます。

12月に入り、まもなく定款の認証手続きが完了します。認証を受けた定款については、学会ホームページに掲載するかたちで報告させていただきます。

#### ■諸規程案に対する意見募集について

法人設立にあわせて、諸規程の整備も必要になります。そこで、各理事がそれぞれ担当する規程を見直して法人の諸規程案を作成し、第 259 回理事会にかけて承認されました。この諸規程案についても学会ホームページで公開して、会員から意見を募ることにします。会員から寄せられた意見を受けて必要な修正を行い、法人の設立時理事による理事会審議を経て諸規程を制定します。

#### ■代議員選挙と役員候補選挙について

来春には、代議員と役員（理事・監事）候補の選挙を行います。その進め方の概要については、第 37 回総会で説明させていただいたとおりです。選挙に関わる規程の整備は現在、法人化部会で進めております。選挙管理委員会を設けて準備を進める必要がありますが、理事会で相談した結果、代議員選挙については銀島理事、高藤理事、余田理事、役員候補選挙については久保田理事、小山理事、隅田理事がそれぞれ務める予定になっています。（法人が行う選挙の選挙管理委員会ですので、正式決定は法人の設立時理事による理事会でなされます）

#### ■法人への財産移行のスケジュールについて

法人への財産移行に際して納税が必要にならないか総会で質問がありました。この件について税理士

に確認したところ、その必要はないそうです。

法人への財産移行は、来年の1月と6月末に分けて行うことになりました。1月に移行する財産は、全財産から「任意団体の理事会旅費、市民税と府民税（7万円）、税理士へ支払う顧問契約料」を除いた額とします。そして残った財産を6月末に移行します。

## 年 会

### 第 38 回年会 開催案内（第 2 次）

1. 日程：2014 年 9 月 13 日（土）～15 日（月）（3 日間）
2. 会場：9 月 13 日（土）・15 日（月）：埼玉大学（大久保キャンパス）  
（〒338-8570 さいたま市桜区下大久保 255）  
<http://www.saitama-u.ac.jp/>  
9 月 14 日（日）：大宮ソニックシティ（小ホール）、大宮ソニック市民ホール（集会室）  
（〒330-8669 さいたま市大宮区桜木町 1 丁目 7-5）  
<http://www.sonic-city.or.jp/>
3. 主催：日本科学教育学会（後援：未定）
4. 年会実行委員会：[実行委員長] 清水 誠  
[実行委員] 浅田茂裕、小倉 康、二宮裕之、松寄昭雄
5. 連絡先：日本科学教育学会第 38 回年会実行委員会  
〒338-8570 埼玉県さいたま市桜区下大久保 255  
埼玉大学教育学部 小倉 康
6. 内容：次の内容を予定（詳細は年会 Web サイト及び次号『科学教育研究レター』で案内）
  - (1) シンポジウム
  - (2) 課題研究発表
  - (3) 一般研究発表
  - (4) インタラクティブセッション
  - (5) その他の企画：総会、懇親会、若手の会、各種会合など

2013 年度研究会開催のお知らせ

2014年3月以降に開催する研究会については、下記の通りである。なお、案内及びプログラム等の詳細については学会ホームページに順次掲載するので、ご覧頂きたい。

(1) 2013 年度第 3 回研究会（北陸甲信越支部開催）

[テーマ] 現代的課題に応える科学教育実践の分析の視点と方法

[日 時] 2014 年 3 月 1 日（土） 10:00～16:00

[会 場] 上越教育大学

[参 加] 発表の有無にかかわらず参加できます。会員でない方もご参加いただけます。  
参加費は無料です。

[発表申込み] メールに下記の項目を記載し、第 3 回研究会企画編集担当：稲田結美（上越教育大学）までお申し込み下さい。

- ①発表題目、②発表者名、③所属、④連絡先住所、氏名、電話番号、メールアドレス、
- ⑤使用機器

[申込み・連絡先] 2013 年度第 3 回日本科学教育学会研究会・企画編集担当：稲田結美  
〒943-8512 新潟県上越市山屋敷町 1 番地 上越教育大学  
Tel: 025-521-3458 E-mail : jsse2014[at mark]juen.ac.jp

[申込み締切] 2014 年 1 月 27 日（月）

[原稿提出締切] 2014 年 2 月 7 日（金）

(2) 2013 年度第 4 回研究会（南関東支部開催）

[テーマ] 実社会・実生活との関連を重視した科学教育

[日 時] 2014 年 3 月 22 日（土） 9:30～16:30

[会 場] 東京学芸大学 小金井キャンパス N 講義棟（予定）

[参 加] 発表の有無にかかわらず参加できます。会員でない方もご参加いただけます。

[問い合わせ先] 2013 年度第 4 回日本科学教育学会研究会・事務局：鎌田正裕  
〒184-8501 小金井市貫井北町 4-1-1 東京学芸大学  
Tel: 042-329-7542 E-mail : kamata[at mark]u-gakugei.ac.jp

[その他] 発表申込み等に関する詳細は、後日、学会ホームページでご確認下さい。

(3) 2014 年 4 月以後の研究会開催予定（予告）

第 5 回研究会（北関東支部開催）2014 年 4 月 6 日（土）／会場：宇都宮大学教育学部

第 6 回研究会（中国支部開催）2014 年 5 月 31 日（土）／会場：島根大学教育学部

第 7 及び 8 回研究会

- ・東海支部開催：2014 年 6 月／会場：三重大学教育学部
- ・四国支部開催：計画中

国際学会参加報告（13）－ESERA2013－

2013年9月3～7日の日程で、キプロス大学において、European Science Education Research Association(ESERA)2013が開催されました。開催地ニコシアは35℃の乾燥した猛暑となるものの、夕暮れ時は風が心地よく感じられ、野外ステージでオープニングセレモニーが行われました。金融危機やシリア情勢が懸念されていましたが、街は落ち着いたようすで、50数カ国から、事前申込みだけでも約1000人の参加者が迎えられて盛会でした。

学会のテーマは“Science Education Research for Evidence-based Teaching and Coherence in Learning”であり、以下の16のストランドが設定され、基調講演4件、シンポジウム219件、口頭発表495件、ポスター発表241件、ワークショップ13件、計972件の発表が行われました。

1. Learning science: conceptual understanding
2. Learning science: cognitive, affective, and social aspects
3. Science Teaching Processes
4. Digital resources for science teaching and learning
5. Teaching-Learning Sequences as innovations for science teaching and learning
6. Nature of science: History, Philosophy and Sociology of Science
7. Discourse and argumentation in science education
8. Scientific literacy and socio scientific issues
9. Environmental, health and outdoor science education
10. Science curriculum and educational policy
11. Evaluation and assessment of student learning and development
12. Cultural, Social and Gender Issues in science and technology education
13. Pre-service science teacher education
14. In-service science teacher education, continued professional development
15. Early years science education
16. Science in the primary school

日本からは、私を含め13人が参加し、East-Asian Association for Science Education(EASE)による招待シンポジウムに隅田学先生（愛媛大学）が登壇されたほか、Student Interest、Argumentation、Computer Based Learning、Biology Education、Science Education in the Early Years、Teacher Professional Development、Society and Environment Educationのセッションで計9件の発表がありました。口頭発表の各セッションでは、質疑も含め1人30分の発表が4件行われました。ポスター発表では、一つの教室で6～8件の発表が行われ、はじめに発表者がそれぞれ3分間のスピーチを行った後、ポスター前で自由討議を行い、最後に1人ずつセッションの感想を述べるという形式でした。

私自身は、“Evaluation of Japanese pre-service teachers' arguments on global warming”というタイトルでポスター発表を行い、対象とした大学生の特徴や評価の枠組みについて、質問を受けながら補足説明したり、「なぜ日本の pre-service teachers は、アーギュメントが苦手か？」という質問に対して、アーギュメントを練習していない点を指摘したりしました。同じ部屋では、村津啓太氏（神戸大学）が、



“Enhancing the quality of argumentation through question-focused teaching: A case study of 6th-grade primary school students (11-12 years old) in science lesson on static electricity.” というタイトルで、小学生を対象とした実践研究を発表されていました。他にも **Argumentation** のセッションを中心に参加し、科学概念や社会の科学問題 (socio scientific issue) を題材として、多様な国々で **Argumentation** を導入した指導法や評価法が開発されていることを知り、大変有意義でした。科学教育の中でアーギュメントを構成する能力が世界的にも求められていると実感しました。

大会の詳細は、ESERA2013 のホームページ (下記) をご覧ください。次回は、2 年後の 2015 年 8 月 31 日から 9 月 4 日の日程で、フィンランドのヘルシンキで開催される予定です。

ESERA2013 のホームページ : <http://www.esera2013.org.cy/>

(宮崎大学教育文化学部・山本智一)

## 国際学会参加報告 (14) –The ICASE WorldSTE 2013 Conference–

2013 年 9 月 29～10 月 3 日の日程で、クチンのマレーシア大学サワラクキャンパスにおいて、The 4<sup>th</sup> ICASE World Conference on Science and Technology Education (The ICASE WorldSTE 2013 Conference) が開催されました。日本科学教育学会は、ICASE (International Council of Associations for Science Education) と国際交流を行うことが規定されていますが、2008 年度以降、ICASE 事務局が移転を繰り返し連絡が取れなくなったこともあり、交流が途絶えていました。2013 年世界大会の総会において、日本科学教育学会の ICASE への再加入が承認され、国際交流を再開することができました。

今回で第 4 回となる世界大会には、世界 34 カ国から、450 名を超える参加者が集い、盛会でした。学会のテーマは“Live Science, Love learning, Create Change”であり、以下の 19 のストリームが設定され、基調講演 7 件、シンポジウム発表 13 件、口頭発表 104 件、ポスター発表 19 件、セミナー 40 件、ワークショップ 10 件、フォーラム 1 件の計 195 件の発表が行われました。

1) Primary/ECE/Elementary school science education; 2) Secondary/middle /senior school science education; 3) University education/science education research; 4) Science research/world science projects; 5) Biology education/marine education /aquatic education/biodiversity and ecosystem services; 6) Physics/astronomy education/Einsteinian physics stream/Space travel and near-Earth science; 7) Chemistry education/Green chemistry; 8) Human biology/medical education; 9) Earth sciences/geography education; 10) STEM – Science, technology, engineering and mathematics education/Cross-curricula education; 11) Non – formal STE (museums, centres)/Science communication/Youth Forum stream; 12) Technology education and research; 13) Non-nuclear renewable energy/energy efficiency; 14) Safety in science/laboratory practice; 15) Sustainability/environmental education /climate change/global environmental issues/Rio +20 follow up STE action; 16) Science in society/nature of science/industry and economic links/world of work/responsible decision making; 17) Curriculum, policy and assessment/Standards/Future directions in STE and education/Education issues/Effective strategies and practice/Education management/STE resources; 18) Science education associations/academies; 19) ICASE Symposium

日本からは、私を含め 5 人が参加し、発表しました。ICASE 世界大会の特徴は、科学技術教育、環境教育、安全教育等の多様な研究発表内容、世界中の科学教育研究・実践者による議論・交流、そして

ユネスコとの連携が挙げられると思います。世界大会中に、参加者による協議を経て、今後の科学教育指針としてまとめられた「クチン宣言 (The Kuching Declaration)」は、ウェブ公開へ向けて、現在、ユネスコと最終調整中です。

日本科学教育学会が ICASE の正会員となりましたので、今後、日本科学教育学の会員が ICASE の世界大会へ参加する際には、参加費の会員割引が適用されます。次回の世界大会は、3年後の 2016 年に、トルコのイスタンブールで開催されます。将来、日本でも世界大会を開催したいものです。

ICASE のホームページ： <http://www.icasonline.net/index.html>

(愛媛大学教育学部・隅田 学)

### 国際学会開催情報－PME38－

数学教育に関する国際学会である PME (International Group for the Psychology of Mathematics Education) の第 38 回研究大会が、来年 7 月に開催される予定です。PME は、数学教育研究の中でも、特に、心理的側面に関する研究にかかわる情報交換の場として設立された学会であり、毎年夏に学会が開催されています。PME では、基調講演をはじめ、「Research Report」や「Short Oral Communication」などの個人研究の発表の場が用意されています。また、特定の研究テーマについて議論する場として、一般に、「Research Forum」や「Discussion Group」なども設定されます。

第 38 回研究大会は、カナダのバンクーバーで予定されており、その詳細は、下記の通りです。なお、第 38 回研究大会は、PME-NA (North American Chapter of the International Group for the Psychology of Mathematics Education) の第 36 回研究大会と合同で開催されることになっています。

1) 日程： 2014 年 7 月 15 日 (火) ～ 7 月 20 日 (日)

2) 開催地： カナダ、バンクーバー

3) 担当校： The University of British Columbia および Simon Fraser University

プログラムなどの詳細については、今後、下記の PME のホームページに掲載される予定です。

PME ホームページ： <http://igpme.org/>

(鹿児島大学教育学部・山口武志)

### 学協会との国際交流－ICASE・Teresa 次期会長からのメッセージ－

2013 年 9 月 29 日の ICASE (International Council of Associations for Science Education) 総会にて、日本科学教育学会の ICASE への再加入が正式に承認されましたのでお知らせいたします。テレサ・ケネディ (Teresa J. Kennedy) ICASE 次期会長より、本学会の中山迅会長にお祝いのメッセージを頂きましたので紹介いたします。ICASE では、レフェリー付の学術雑誌を発行しています。皆様の積極的な研究成果の世界発信を願っております。

(国際交流委員長・愛媛大学教育学部・隅田 学)

INTERNATIONAL COUNCIL OF ASSOCIATIONS  
FOR SCIENCE EDUCATION



Federation International  
des Associations de  
Professeurs de Sciences

Federation Internacional  
de Asociaciones de  
Profesores de Ciencias

**ICASE Executive Committee**

*President*  
**Ben Akpan**  
Nigeria

*President Elect / Membership*  
**Teresa Kennedy**  
USA

*Secretary*  
**Beverley Cooper**  
New Zealand

*Treasurer*  
**Lindsey Conner**  
New Zealand

**Regional Representatives**

*African Representative*  
**Mamman Wasagu**  
Nigeria

*Asian Representative*  
**Devadason Robert Peter**  
Malaysia

*Australia / Pacific Representative*  
**Christine McDonald**  
Australia

*European Representative*  
**Declan Kennedy**  
Ireland

*Latin American / Caribbean  
Representative*  
**Christiane Gioppo**  
Brazil

*North American Representative*  
**Michael Padilla**  
USA

**Standing Committees**

*Pre-Secondary / Informal  
Science Education*  
**Steven Sexton**  
New Zealand

*Projects / Secondary Science  
Journal*  
**Jack Holbrook**  
Estonia

*Publications*  
**Bulent Cavas**  
Turkey

*Safety in Science Education*  
**James Kaufman**  
USA

*Science and Technology  
Education Centres*  
**Janchai Yingprayoon**  
Thailand

*Sustainability / Environmental  
Education / World Conferences*  
**Elaine Horne**  
Australia

*University Liaison*  
**Miia Rannikmaa**  
Estonia

November 19, 2013

Dr. Hayashi Nakayama  
JSSE President, Japan

On behalf of the **International Council of Associations for Science Education**, we would like to personally congratulate the Japan Society for Science Education (JSSE) and Prof. Dr. Manabu Sumida on his election to the Executive Committee of ICASE during the ICASE General Assembly Meeting that took place on 29 September 2013.

On that day, 124 delegates representing 15 ICASE member organizations from 10 countries voted unanimously to invite Dr. Sumida to serve on the ICASE Executive Committee in the name of the Japan Society for Science Education (JSSE). The ICASE network currently consists of 29 paid organizations (including some universities) representing 19 countries, and continues to grow. We are very pleased to have representation from Japan on our leadership committee. Dr. Sumida's term as the Regional Representative for Asia and the Pacific for ICASE will be from 2014 – 2016.

This JSSE leadership role will be especially important as countries in the Asia and Pacific region take action in science and technology education, and benefit from the work of ICASE. The ICASE WorldSTE2013 event that occurred in Kuching was one of the best ICASE events to date. And, we are especially proud of the robust cooperation of all attendees to produce a strong and 21<sup>st</sup> century action-based declaration. We respectfully request that JSSE ensure that the ICASE Kuching Declaration is widely disseminated throughout the region once it has been made available from UNESCO.

ICASE provides opportunities for member organizations and their representatives to promote excellence and innovation in science teaching and learning for all through:

- connections to the members of other science organizations around the world;
- serving in international leadership positions on standing committees and research initiatives;
- disseminating information internationally to the members of international science organizations through the ICASE listserv and publications;
- publishing research articles in the peer-reviewed ICASE journal (1990-present), published in March, June, September and December each year, as well as in the ICASE newsletter; and
- attending and presenting at ICASE regional events and workshops.

In addition, ICASE member organizations and their representatives receive reduced conference registration fees for attendance at all ICASE World Conferences.

We are hopeful that the Japan Society for Science Education (JSSE) will support Dr. Sumida's position on the ICASE Executive Committee, and will also send a delegation of representatives (professors, teachers, students) to the next ICASE WorldSTE Conference scheduled to occur in Turkey in 2016 in order to share the innovations occurring in Japan and the wider Asia Pacific Region.

Again, we congratulate the Japan Society for Science Education and Prof. Dr. Manabu Sumida for joining the leadership team of ICASE.

Sincerely,

*Teresa J. Kennedy*

Prof. Dr. Teresa J. Kennedy, Ph.D.  
ICASE President-Elect / Membership Chair  
Email: [tkennedy@uttyler.edu](mailto:tkennedy@uttyler.edu)

2013 年度第 1 回編集理事会報告

2013 年 11 月 16 日（土）10:50～13:00、2013 年度第 1 回編集理事会がコクヨ品川オフィス 10 階において開催された。

まず、「科学教育研究」の編集状況の報告が行われた。新規投稿論文（2013.9.1～2013.10.31）：26 編（内訳：和文 25 編、英文 1 編）、査読中論文（2013.10.31 現在）：37 編（内訳：担当編集委員選定中：13 編、査読者選定中：4 編、査読中（1 回目）：11 編、改訂稿待ち：1 編、査読中（2 回目）：3 編、担当編集委員による総合判定中（2 回目）：2 編）、掲載決定論文（2013.9.1～2013.10.31 現在）：4 編（内訳：研究論文 4 編、資料：0 編（通算合計 37-4：5 編））。

次に、掲載不可判定論文の修正投稿後の対応、2013 年度特集（39-2）のテーマ、プラザ枠の掲載、投稿規定の変更について、寺田編集担当理事より説明があり、意見交換が行われた。

また、村山特集編集部会長から、第 38 巻特集「学習科学（Learning Sciences）」について、進捗報告があった。他には、「科学教育研究」の電子化、法人化に伴う諸規定の見直しについて、検討作業の報告があり、今後取り組んでいく課題等が確認された。

次回、2013 年度第 2 回編集理事会は、2014 年 3 月 15 日（土）、11:00～14:00、場所はコクヨ品川オフィスを予定している。

「科学教育研究」投稿状況および掲載決定状況

（平成25年10月31日 現在）

	新規投稿論文数(編)		審査中(編)		掲載決定論文数(掲載号)		招待論文数(掲載号)		掲載不可論文数	
	和文	英文	和文	英文	和文	英文	和文	英文	掲載不可	辞退
2012年 11月	7	0	36	0	3 (37-1) 0 (37-2)	0 (37-1) 0 (37-2)	0		11	0
12月	7	0	36	0	2 (37-1) 1 (37-2)	0 (37-1) 0 (37-2)	0		4	0
2013年 1月	7	0	36	0	0 (37-1) 1 (37-2)	0 (37-1) 1 (37-2)	0		5	0
2月	2	0	31	0	0 (37-1) 1 (37-2)	0 (37-1) 0 (37-2)	0		5	1
3月	12	0	31	0	5 (37-2) 0 (37-3)	0 (37-2) 0 (37-3)	0	2 (37-2)	7	0
4月	3	1	32	1	0 (37-2) 0 (37-3)	0 (37-2) 0 (37-3)	0		2	0
5月	4	0	24	1	0 (37-2) 4 (37-3)	0 (37-2) 0 (37-3)	0		8	0
6月	5	0	23	1	2 (37-3) 0 (37-4)	0 (37-3) 0 (37-4)	0		3	1
7月	11	0	30	0	1 (37-3) 0 (37-4)	0 (37-3) 0 (37-4)	0		4	0
8月	6	0	28	0	0 (37-3) 1 (37-4)	0 (37-3) 0 (37-4)	0		7	0
9月	9	1	29	1	3 (37-4) 0 (38-1)	0 (37-4) 0 (38-1)	0		4	1
10月	16	0	37	1	1 (37-4) 0 (38-1)	0 (37-4) 0 (38-1)	0		7	0

### 広報委員会からのお知らせ

科学教育研究レター第 215 号をお送りいたします。お気づきの点などございましたら、学会 Web サイトにある「お問い合わせ」(Web メール)をご利用のうえ、お知らせください。

担当理事：久保田善彦 (宇都宮大)	谷塚光典 (信州大)
委員：縣 秀彦 (国立天文台)	銀島 文 (国立教育政策研究所)
稲垣成哲 (神戸大)	東原貴志 (上越教育大)
今村哲史 (山形大)	山口武志 (鹿児島大)
幹事：内ノ倉真吾 (鹿児島大)	小松孝太郎 (信州大)

科学教育研究レター編集・印刷 日本科学教育学会広報委員会

日本科学教育学会

Japan Society for Science Education

URL : <http://www.jsse.jp>

□事務局 宮崎大学大学院教育学研究科 内

□事務支局 (入退会・会費・学会誌発送関連)

中西印刷 (株) 学会部 内

□編集事務局 (論文投稿・査読編集)

中西印刷 (株) 学会部 内

郵便振替口座 : 00170-6-85183 日本科学教育学会

銀行口座 : みずほ銀行 京都中央支店 普通 2269008 日本科学教育学会

TEL : 075-415-3661 FAX : 075-415-3662

E-mail : [jsse\[at mark\]nacos.com](mailto:jsse[at mark]nacos.com)

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル

TEL : 075-415-3155 FAX : 075-417-2050

E-mail : [jsse-hen\[at mark\]nacos.com](mailto:jsse-hen[at mark]nacos.com)

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル